

311 防災プロジェクト（園田研究室卒業研究テーマ1）

テーマ：「生活空間に海拔表示をする社会貢献について」

目的：地域住民の防災意識の高揚に役立つための測量作業による地域貢献

3.11 東日本大震災における甚大な津波被害の現状を目の当たりにした土木技術者および土木に関わる人は、非常に衝撃を受けた。また、日頃から社会基盤整備や公共工事に携わる人材を育成している教育機関も同様である。

被災地に貢献できることは義援金を送ることしかできないが、この未曾有の災害から我が地域の防災について考えるべきである。

この時期にしっかりと考えて、対岸の火事としないで行動することが技術者の使命と考える。既に、大分県佐伯市の建設業協会佐伯支部では、電柱に手書きの標高を張り付ける作業を行うなどの行動が出来ている。

今回、地域における主要道路の交差点を中心に写真に示すような海拔表示を行う。



電柱への海拔表示例（NBU 正門前）

当面の表示場所は、本学 NBU が位置する大在・坂の市および鶴崎駅を中心としたエリアを優先的に実施したい。

方法： 大分市内には無数の公共基準点が配置されており、公共測量によって標高は測定されている箇所が多い。近傍に基準点がある場合は、その点からの観測で交差点内電柱位置の高さを求める。次に、目線を考慮した高さまでの位置決めを行う。

次に、市販のスプレーシートを用いて電柱にスプレーで「海拔 ○○・○m」と表示する。

本研究は、大分県産学官連携交流グループ研究「都市交通環境整備システムの開発」のテーマと一部が関連することから、GIS による位置表示（電子国土による方法）によってその位置を公開することとする。産学官・業界・地域の連携を図りつつ、教育プロジェクトとして遂行予定。